

令和3年度公社等点検評価表

(一次点検評価・二次点検評価)

公 社 等 名	公益財団法人ふくしま海洋科学館
所 管 部 局	企画調整部
担 当 課	文化スポーツ局生涯学習課

《評価資料》

1	公社等点検評価表	-----	1
2	付表1(概要)	-----	6
3	付表2(実施事業)	-----	7
4	付表3(経営状況)	-----	13
5	付表4(経営分析等)	-----	14
6	付表5(組織人員体制)	-----	16
7	付表6(県関与の状況)	-----	17
8	別紙1(県の財政的関与(支援)の内訳)	-----	18
9	別紙2(役員等の状況)	-----	19

〔一次点検評価：公社等の自己点検〕

視点1：計画性（マネジメントサイクルの確立）

公社等経営の理念・目標・方針などが、各種計画等に反映され、事業の企画立案、実施、評価、改善が行われているかという、経営マネジメントサイクルの視点

1 マネジメントサイクルの確立

経営計画等の具体的な成果目標とこれまでの評価、事業目標とその実績（付表2）の評価

(1) 経営計画等について

中期経営計画2019年度～2023年度

令和2年度財団法人ふくしま海洋科学館事業計画

(2) 成果目標について

東日本大震災の経験を踏まえ、新たに作成した「中期経営計画2019年度～2023年度」の2カ年目となった令和2年度は、コロナ禍の影響で約1か月間の臨時休館を余儀なくされたことに止まらず、感染拡大防止の観点から、当館の魅力の一つとなっている多様な体験プログラムやイベントを中止せざるを得ない状況が続き、集客にも大きく影響を及ぼした。入館者数、パスポート保有者数、移動水族館車の実施回数、提携旅館・ホテル等からの送客数の4項目の成果指標に対し、目標値を下回った。しかし幼稚園・学校教育減免者数については、コロナ禍の緊急事態宣言で、春先に教育旅行を自粛した学校団体の利用が、秋に一気に集中したことにより、目標を達成することができた。依然として原発事故による風評被害に加え、令和2年度はコロナ禍による影響が大きな打撃となった。

実 績	令和2年度	
	実 績	目 標 値
入館者数	34万人	57万人
パスポート保有者数	4,545人	7,500人
幼稚園・学校教育減免者数	3.0万人	2.2万人
移動水族館回数	14回	41回
提携ホテルからの送客数	1.2万人	2.9万人

(3) 事業目標と実績の評価

原発事故による風評被害の影響とコロナ禍の打撃により、令和2年度の入館者数は前年比36.3%減、震災前の平成22年度比約60.6%減の339,855人に落ち込んだ。

魅力ある展示に繋がるように、黒潮水槽では、友好提携園館である新潟市水族館と佐渡でバショウカジキを収集し展示。

ユーラシアカワウソが2個体を出産し、「アキヨ」「ヨシ」と命名、ゴマフアザラシが1頭出産し「だいふく」と命名、ホンドタヌキが3頭を出産した。他動物園よりニホンアナグマ2頭を搬入、ニホンアナグマ・ホンドタヌキ舎を新たにオープンした。

2020年6月に新種記載されたモユククサウオの標本展示、また2021年3月に当館で人工授精に成功した深海魚アバチャンの幼魚の展示を開始した。

研究交流事業では、学会やシンポジウムにおいて講演や発表を行った。（1回）

命の教育の場として設置してある「釣り堀」においては、8,508組が利用した。また、様々な体験ができるスクールは、コロナ禍で通常通り開催できなかったため、オンラインで海の生物に親しむ機会を提供することで、自然の事象に関心を高めることが出来た。

移動水族館事業については、緊急事態宣言や外出自粛要請のため、例年通り実施できず、昨年度を下回る開催回数となった。

2 マネジメントサイクルにおける環境変化・住民ニーズの把握方法

- (1) 来館者へのアンケートを継続的に実施し、来館者の属性や来館のきっかけ、主な立ち寄り先や宿泊地、満足度や意見要望の把握を行っている。
- (2) GW期やお盆期間の繁忙期において、駐車場調査を実施し、来館者居住地及び動向の把握に努めている。
- (3) 小名浜まちづくり市民会議やばんえつ発見の旅、港会(小名浜港関連の16公的機関)、4社協議会(アクアマリンパーク立地のイオンモール小名浜含む4団体)などの会議等に参加し、地域の団体の一員として地域との連携を深め情報収集等に努めている。
- (4) 東日本大震災に起因した原発事故により拡散した放射性物質の自然環境への影響について、水産総合センター中央水産研究所及び金沢大学と共同で調査、研究を行い、調査結果は情報コーナーに掲示するほか、ホームページ等で広く情報を発信することで風評払拭に努めている。
- (5) 海洋生物の放射能汚染調査に取り組み、その結果について館内展示において情報提供を行った。また、金沢大学、木戸川漁業協同組合との共同調査を継続して行った。
- (6) 海・山・川の循環のあり方や自然環境の保全、自然の持続的な利用、多種多様な生物が織りなす命の営みについて考える場として、整備した屋外展示施設「わくわく里山・縄文の里」の更なる魅力に繋がるよう維持管理をしていく。
- (7) 猪苗代町から指定管理を受けている「アクアマリンいなわしろカワセミ水族館」では、福島県の水環境保全・調査研究及び環境教育普及活動に関する事業を行い、積極的に情報発信する。

視点2：経済性・効率性

事業の収支バランスと採算性・収益性の視点

1 経営状況(付表3)及び経営分析等(付表4)についての評価

平成12年度の開館以来、指定管理委託料の額が減少しているが、事業収入の安定確保や支出の見直し等により、平成22年度までは良好な収支バランスが維持でき、安定的な経営を行ってきた。

しかしながら、平成23年3月11日の東日本大震災とそれに伴う原発事故による風評により、当館を取り巻く環境は一変し、当期収入額に占める事業収入が減少する等、将来が不透明な状況にある。

さらに令和2年度においては、コロナ禍による影響を大きく受け、事業収入が大幅に減少したことから、当期一般正味財産増減額はマイナス4億9千万円と、これまでにない多額のマイナスとなった。

2 サービス向上策の評価

令和2年度においても、コロナ禍による臨時休館を除き、年中無休営業を継続し、入館者サービスの向上を図った。

リピーター対策として年間パスポートの販売、地元旅館ホテルとの連携強化、教育旅行等の誘客促進対策を始め、入場券をコンビニエンスストア店舗に加え、スマートフォンで購入できるJTB電子チケットに対応にするなど、来館しやすい環境づくりに努めた。

また、来館者サービスの向上と広報に努め、SNSによる情報発信の強化やオンラインプログラムやイベントの開催、季節に関連したイベントを開催するなど、常設展示を拡充したテーマ展示を実施した。

さらには、新たな展示生物の収集を始め、メニューのリニューアルや新規商品を導入するなど来館者サービスの向上に努めた。

〔二次点検評価:左に対する所管部局としての評価〕

視点1：計画性（マネジメントサイクルの確立）

公社等経営の理念・目標・方針などが、各種計画等に反映され、事業の企画立案、実施、評価、改善が行われているかという、経営マネジメントサイクルの視点

1 マネジメントサイクルの確立

(1) 計画性

経営計画については、東日本大震災の経験を踏まえ、令和元年度に「中長期計画2019年度～2023年度」が策定された。本計画は、「海を通して『人と地球の未来』を考える」という法人の基本理念を確認する一方で、その前身である「中長期計画2014年度～2018年度」の反省に加えて、風評の継続等社会環境の変化、近県水族館のリニューアル等業界環境の変化といった現状分析を反映し、環境水族館路線の堅持、他の水族館にない展示・プログラムの展開、連携交流の促進等に取り組む内容となっているため、マネジメントサイクルが確立されていると認められる。

(2) 成果目標と達成状況

本計画において5つの成果目標が掲げられている中で、令和2年度は設定した目標5項目のうち、4つの項目については、東日本大震災に係る原発事故の風評被害や大規模自然災害、新型コロナウイルス感染拡大防止対策等の影響による入館者数の落込等により、達成できなかった。

2 マネジメントサイクルにおける環境変化・住民ニーズの把握方法

経営計画に沿った事業構築を行う一方で、個々の事業を改善していくために、アンケート調査の実施、地域の団体との意見交換等を通して、利用者や地域のニーズの把握にも努めている。

また、放射線の情報を広く発信することで、風評の払拭にも努めている。

3 令和2年度実施事業に対する評価

(1) 設立目的及び公益性に照らした事業の評価

令和2年度に実施した飼育展示事業その他の各種事業は、海洋生物及び海洋文化・科学に関する展示・研究並びに環境保全などに関する教育普及を実施するという法人の設立目的に合致するとともに、公益事業としてふさわしいものであったと認められる。

飼育困難生物の畜養や深海性生物の採集を行い、魅力ある展示に努めたほか、季節ごとのイベントや様々な企画展を開催し、誘客と来館者サービスの向上に取り組んだことは評価できる。

(2) 公益事業と収益事業のバランス

収益事業であるミュージアムショップ等の事業とレストラン事業は、ふくしま海洋科学館利用者の利便性を図る目的で実施しており、公益事業に附随する事業であり、収益事業による事業は、公益事業の財源として活用されている。

その事業規模は、公益事業と対比して2分の1以下となっているため、バランスは適正である。

(3) 社会情勢を踏まえた必要性

「持続可能性」と「命の教育」を中心とした環境教育活動は、現代的な課題である環境問題の解決に向けた取り組みであり、その重要性はますます増すものと考えられる。

また、自然体験による学習交流支援、放射能汚染問題にかかるニーズは大きくなるものと考えられる。

ふくしま海洋科学館はアクアマリン・えっぐを含む、施設の一層の有効活用、関係機関との協力等によって、次の時代・世代の要請に応える事業を展開していくことを期待する。

視点2：経済性・効率性

事業の収支バランスと採算性・収益性の視点

1 県の財政的関与にかかる自己点検について

新型コロナウイルス感染拡大防止対策の影響を大きく受け、法人の経済的かつ効率的な施設の運営をもってしても、令和2年度の法人の財務状況としては、正味財産が大きくマイナスとなった。

また、入館者数が震災前の状況まで回復していないことなど、今後の収支バランスの安定を図る上で様々な変動要因があることから、引き続き法人の財務状況について注視していく必要がある。

2 収益事業について

ミュージアムショップ等事業、レストラン事業等の収益事業については、その利益の一部が他会計に繰り入れられて、公益事業を実施するために有効に活用されている。

今後とも創意工夫により収益事業会計収益の安定を図る必要があるが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策等のため、入館者数が大きく落ち込んでいることから、その収支については注視していく必要がある。

【参考】収益事業会計収益及び他会計への繰出額 () 書きは他会計への繰出額

令和 2年度	229,398千円	(16,081千円)
令和 元年度	276,142千円	(27,030千円)
平成30年度	277,316千円	(29,780千円)
平成29年度	317,365千円	(50,886千円)
平成28年度	406,497千円	(80,825千円)
平成27年度	379,621千円	(122,164千円)
平成26年度	341,767千円	(107,145千円)
平成25年度	337,760千円	(107,471千円)
平成24年度	337,016千円	(85,000千円)
平成23年度	233,487千円	(40,000千円)
平成22年度	330,381千円	(40,000千円)
平成21年度	324,814千円	(84,500千円)

3 経費節減について

施設管理費について、令和2年度は、熱源機の運転調整、水槽熱負荷軽減の取組み等の結果、震災前の平成22年度の実績を下回ることができた。

引き続き、創意工夫により施設管理の効率化に努める必要がある。

4 サービス向上策について

年中無休営業並びにゴールデンウィーク、夏休み期間及びクリスマス期間の開館時間延長に加え、自然体験による子育て支援、放射性物質測定結果の情報提供、レストランにおけるメニューのリニューアル等、来館者サービスを向上させた。

しかしながら、原発事故による風評被害、新型コロナウイルス感染拡大防止対策等により、依然として入館者数が震災前の水準まで回復しておらず、収支動向については注視していく必要がある。

〔一次点検評価：公社等の自己点検〕

視点3：課題への対応状況
共通課題1：東日本大震災からの復旧状況 原子力発電所事故に伴う損失・損害賠償請求の状況
1 東日本大震災からの復旧状況 平成25年度で復旧工事は終了したが、経年劣化に加え、地震の揺れ、津波の塩害等により、令和2年度は天井ガラスのボルトが落下するなど、建物・設備の劣化が予想以上に進んでおり、現在も建物の外周を養生したままの外観となっている。また、築20年を経過しているため、大規模改修計画を策定のうえ、大規模な修繕又は交換を行う必要がある。
2 原発事故に伴う損失 令和2年度の入館料収入は、平成22年度に比べて488,574,050円の大幅な減収となった。これはコロナの影響によるものが大きいですが、原発事故による風評の影響が依然として続いているとの認識である。
個別課題：

〔二次点検評価：左に対する所管部局としての評価〕

視点3：課題への対応状況
共通課題1：東日本大震災からの復旧状況 原子力発電所事故に伴う損失・損害賠償請求の状況
1 東日本大震災からの復旧状況 復旧工事については終了したが、地震の揺れ、津波の塩害等及び築20年を経過したことにより建物・設備の劣化が進んでいるため、適切な維持管理を行っていく。
2 原発事故に伴う損失及び賠償請求状況 依然として風評被害による入館者の減少は続いているので、今後も近隣施設との連携や展示の充実を図り入館者数の増加を目指す。
個別課題：

付表1：公社概要

公社等の名称	公益財団法人ふくしま海洋科学館					
設立根拠法令	ふくしま海洋科学館条例					
設立年月日	平成10年 4月 1日					
代表者職氏名	理事長 安部義孝					
事務所の所在地	福島県いわき市小名浜字辰巳町50番地					
ホームページアドレス	https://www.aquamarine.or.jp					
県所管部・課	企画調整部文化スポーツ局生涯学習課					
設立目的	海洋生物及び海洋文化・科学に関する展示・研究並びに環境保全等に関する教育普及を実施するとともに、本県にふさわしい地域特性を生かした生涯学習の振興を図り、もって本県教育・文化の振興と生涯学習社会の実現に寄与することを目的とする。					
経営理念・目標等	<p>公益財団法人ふくしま海洋科学館は、平成21年度から中期経営計画を策定し、それに基づき点検・評価を行い、業務の効率化やコスト削減を行うとともに、展示の質の維持・向上を図ることで経営の健全化を目指してきた。しかし平成23年3月の原発事故による風評被害で入館者が激減し、これまでの状況と一変してしまった。</p> <p>このような状況を打開するために、「海を通して人と地球の未来を考える」という基本理念に基づき、「環境水族館宣言」のもと、人びとのオアシスを目指して、生物の生息環境を再現した展示の充実を図りつつ、新たに「里山などの屋外展示プログラム」を展開し、「命の教育」プログラムの実践やシーラカンス調査等希少生物の保全研究への取り組み等を行うことにより「行動する水族館」として内外から高く評価される施設を目指す考えである。</p>					
資本金・基本金	H22末	H29末	H30末	R1末	R2末	R3末予定
(単位:千円)	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000
県出資額	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000
(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
令和2年度末 出資等内訳 (単位:千円) 県分を除く。	出資順位	団体名		出資額		構成比
	1					
	2					
	3					
	4					
5						
主な事業内容 (詳細:付表2)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 海洋生物(その他の水族を含む)の収集、飼育、展示及び調査研究に関する事業 2. 海洋文化・科学に関する資料の収集、展示及び調査研究に関する事業 3. 海洋に係る生物・文化・科学等に関する教育普及及び地域交流に関する事業 4. 海洋生物の保護及び保全の研究に関する事業 5. 身近な自然環境の保全及び修復、再生、持続的利用に関する事業 6. 上記1から5の事業を行うための公の施設等の管理運営に関する事業 7. その他公益目的を達成するために必要な事業 8. ショップ及びレストランの運営等に関する事業 9. 古物営業に関する事業 10. その他上記事業に関連する事業 					

付表2:実施事業

事業名	飼育展示事業					継続事業	公益事業	
1	事業内容	<p>生物収集事業 展示及び研究目的のための生物(水生生物、陸上小動物及び植物)の採集、購入及び輸送を実施する。</p> <p>南方系生物畜養事業 南方系魚類(黒潮大水槽及びサンゴ礁水槽展示生物)を収集し、奄美大島の海上生け簀にて蓄養し輸送する。</p> <p>水生生物保全センター運営事業 採集及び飼育が困難とされる生物の飼育実験及び繁殖研究を実施し、新規の展示開発に取り組むとともに、収集が困難な植物の実生栽培等も行い、独創性のある植物展示に結びつける。</p> <p>飼育生物管理事業 収容生物(植物を含む)の展示・飼育管理、BIOBIOかっぱの里、蛇の目ビーチの環境整備、水生生物保全センター、アクアマリンえっくの飼育管理を行う。</p>						
	目標	<p>淡水生物、沿岸生物、深海生物、北方系生物、南方系生物、サンゴ礁・マングローブ生物、植物の採集購入により展示内容の充実を図る。</p> <p>海上生け簀による蓄養・搬入により展示内容の充実を図る。</p> <p>サンマ・メヒカリの飼育、深海性・外洋性生物等の飼育。</p> <p>収容生物の展示・飼育管理等を行う。</p>						
	事業実績	<p>飼育生物数(各年度末時点)22年度末684種27,495点(東日本大震災により激減)、平成29年度末1,281種162,783点、55品種948点、平成30年度末1,289種89,838点、58品種973点、平成31年度末1,274種60,385点、61品種882点、令和2年度末1,270種64,539点、61品種882点。</p> <p>黒潮水槽では、友好提携園館である新潟市水族館と佐渡でバショウカジキを収集し展示。ユーラシアカワウソが2個体を出産し、「アキヨ」「ヨシ」と命名、ホンドタヌキが3頭を出産し、他動物園よりニホンアナグマ2頭を搬入、ニホンアナグマ・ホンドタヌキ舎を新たにオープンした。</p> <p>水槽数・153槽(本館113槽、アクアマリンえっく28槽、BIOBIOかっぱの里1槽、蛇の目ビーチ1槽、わくわく里山縄文の里2槽、金魚館8槽)</p>						
	事業費 (単位:千円)	H22決算 169,490	H29決算 114,121	H30決算 124,517	R1決算 109,197	R2決算 90,855	R1/22 64.4%	R2/22 53.6%
事業名	移動水族館事業					継続事業	公益事業	
事業内容	<p>移動水族館専用車アクアラバンにより、各地域・各施設のイベント等へ出展し、海の生物に親しみ、自然の事象について興味、関心を高める。</p>							
目標	<p>移動水族館専用車アクアラバンで、各地のイベント等へ出展する。</p>							
事業実績	<p>移動水族館実施件数...22年度12箇所・観覧者16,017名、23年度6箇所・観覧者9,423名、29年度16箇所(18日開催)・観覧者21,394名(有料のみ/広報宣伝及び学校教育関連は除く)30年度15箇所(18日開催)・観覧者29,200名(有料のみ/広報宣伝及び学校教育関連は除く)31年度11箇所(13日開催)・観覧者19,522名(有料のみ/広報宣伝及び学校教育関連は除く)2年度5箇所(5日開催)・観覧者4,685名(有料のみ/広報宣伝及び学校教育関連は除く)</p>							
事業費 (単位:千円)	H22決算 2,611	H29決算 1,080	H30決算 869	R1決算 619	R2決算 172	R1/22 23.7%	R2/22 6.6%	

付表2:実施事業

3	事業名	研究交流事業					継続事業	公益事業
	事業内容	学会及び各種研究会へ参加し、先進技術情報の収集を行い、展示並びに教育普及活動に反映させる。また、友好締結園館との生物及び技術交換等の交流事業を行う。						
	目標	各種学会及び研究会への参加、友好締結園館への職員研修を実施する。						
	事業実績	「山・川・海」健全な水循環を体感するプロジェクト伝・伝馬船製作事業の実施について」日本動物園水族館教育研究会で口頭発表を行ったほか、「日本におけるオウサマゲンゴロウモドキの生息域外保全への挑戦」を日本甲虫学会誌に、「和歌山潮岬沖から採集され飼育されたヤエギスとコクチャエギスの卵と仔稚魚の形態」を魚類学会誌に、「北海道から採集された日本初記録の大型ミズムシ, <i>Arctocoris carinata lansburi</i> Jansson, 1979」を月刊むしへ掲載といった活動を行った。						
	事業費	H22決算	H29決算	H30決算	R1決算	R2決算	R1/22	R2/22
(単位:千円)	13,726	9,277	4,813	5,273	1,498	38.4%	10.9%	
4	事業名	海洋文化推進事業					継続事業	公益事業
	事業内容	シーラカンスの学術研究を長期的なテーマとし、インドネシア諸島周辺海域等の調査を行う。						
	目標	インドネシア周辺海域等での、シーラカンス生態調査の実施。						
	事業実績	新型コロナウイルス感染症流行のため活動中断。						
	事業費	H22決算	H29決算	H30決算	R1決算	R2決算	R1/22	R2/22
(単位:千円)	17,410	3,098	1,721	3,785	0	21.7%	0.0%	

付表2:実施事業

事業名	企画管理事業				継続事業	公益事業		
5	事業内容	<p>企画管理事業 接客技術及び利便性の向上等により来館者サービスの向上に努め、来館者の増加を図る。</p> <p>広報宣伝事業 ふくしま海洋科学館の特色を県内外にアピールするとともに、企画展等の開催が来館者の増加とリピーターの満足度向上に繋がるよう、パブリシティを活用した広報活動や各種媒体による広報宣伝活動を展開する。</p> <p>観光誘致事業 首都圏及び隣接県を中心に、県内外の旅行エージェント等に対する積極的なPR活動及び営業活動を展開する。また、地域の観光関係団体、観光施設等との連携により一層の誘客を図る。</p> <p>地域交流事業 周辺地域との交流を深めて地域に根ざした施設づくりを進め、地域振興に貢献する。</p>						
	目標	<p>受付・案内誘導業務の専門業者への委託、年間パスポートの販売によりサービス向上に努める。</p> <p>テレビ、ラジオ及びCMの放送、旅行誌等への広告掲載、マスコミへの情報提供、テレビ及びラジオへの出演、チラシ配付、ホームページによる広報を実施。</p> <p>エージェント等への営業訪問を実施する。観光懇談会、キャラバン等へ参加し積極的な誘客事業を行う。</p> <p>小名浜港まつりへの協賛、あぶくま発見の旅サポート事業の推進、まちづくり市民会議への参画。</p>						
	事業実績	<p>年間パスポート販売件数・22年度8,386件、29年度7,254件、30年度7,181枚、31年度6,314枚、2年度5,820枚。</p> <p>テレビCM放映局数(県内、県外)・22年度40局、29年度12局、30年度7局、31年度16局、2年度12局。</p> <p>観光券取扱契約業者からの送客数・22年度23,712人、23年度6,336人、24年度25,853人、25年度21,110人、26年度18,451人、27年度15,921人、28年度12,713人、29年度12,219人、30年度14,170人、31年度9,776人、2年度2,935人。</p> <p>旅客斡旋手数料支払契約業者からの送客数・22年度11,145人、29年度5,859人、30年度6,199人、31年度3,644人、2年度832人。</p> <p>コンビニ店舗における前売券販売による集客。・入館者数(29年度8,175人、30年度11,152人、31年度13,093人、2年度6,254人)</p> <p>小名浜まちづくり市民会議等への参加等、周辺地域との交流を深めた。</p>						
事業費	H22決算	H29決算	H30決算	R1決算	R2決算	R1/22	R2/22	
(単位:千円)	158,925	124,782	117,133	129,668	135,618	81.6%	85.3%	

付表2:実施事業

事業名	学習交流事業					継続事業	公益事業	
6	事業内容	解説活動事業 子供から大人まで多くの人々が、海の生物や環境について楽しみながら学び、考え、交流のできる施設をめざし、一般来館者を対象とした解説活動を実施する。 企画展開催事業 来館者サービスと広報を兼ね、常設展示とテーマを定めた企画展を開催する。 展示事業 魅力ある展示を維持するため、展示品、種名板及び情報ソフト等の更新を随時行う。 学校教育関連事業 学校及び社会教育施設との連携を図りながら、海の生物、海洋文化・科学に関する学習支援事業を推進する。 情報提供事業 インターネットや機関誌を利用して、活動状況や水生生物及び海などに関する情報を提供する。						
	目標	海の生物や環境について楽しみながら学び、考え、交流のできる施設を目指す。 「小名浜国際環境芸術祭」「キッズアート展」等の企画展を開催する。 展示の充実を図る。 館内学習、館外授業、ガイダンス及び移動水族館専用車輛の活用等により学習支援事業を実施する。 ホームページの随時更新、機関紙(AMF NEWS)年4回の発行。						
	事業実績	ボランティアによるバックヤードツアーを毎日開催した。(29年度24,820人、30年度23,388人、31年度22,396人、2年度中止) 企画展開催件数...22年度10件、29年度9件、30年度11件(催事も含む)、31年度14件(催事も含む)、2年度12件(催事も含む)。 オセアニックギャラリーでは、「いわき七浜捕鯨文化」「漁場から食卓まで」「あぶくま東縁の地質生物」「弁財天ウナギプロジェクト」「地球環境の保全活動」「よみがえれ木戸川」「採集する。研究する。展示する。」について展示した。 移動水族館専用車による移動水族館の開催...22年度10市町村18日開催、29年度12市町村23回開催、30年度13市町村20回、31年度19市町村27回、2年度5市町村9回(このほか広報宣伝活動、営業活動にも使用) 情報コーナーにおいて国内外の友好園館を紹介する展示を実施した。 風評被害払拭に関わる放射線関連の情報を提供した。 ホームページ、フェイスブック、ツイッターで情報提供。機関紙(AMF NEWS)を年4回発行。						
	事業費	H22決算	H29決算	H30決算	R1決算	R2決算	R1/22	R2/22
(単位:千円)	119,660	28,789	13,472	7,838	6,773	6.6%	5.7%	
事業名	スクール開催事業					継続事業	公益事業	
7	事業内容	海の生物に親しみ、自然の事象について興味、関心を高めること及び命の教育を推進することを目的に、各種スクールを開催する。 平成27年度からは、子ども漁業博物館の機能を追加して展示を行っている。						
	目標	キッズプログラム・ナイトプログラム、釣り体験の実施。						
	事業実績	スクールの開催状況...5回105名参加。釣り体験...参加者8,508組						
	事業費	H22決算	H29決算	H30決算	R1決算	R2決算	R1/22	R2/22
(単位:千円)	20,077	33,909	37,025	31,539	17,554	157.1%	87.4%	

付表2:実施事業

8	事業名	ボランティア等活動事業					継続事業	公益事業
	事業内容	アクアマリンふくしまボランティアの会による自主的、積極的なボランティア活動を通して、来館者の学習活動を支援するとともに、多様な交流を促進していく。						
	目標	バックヤードツアーの実施、アクアマリンえっぐでのプランクトン解説等。						
	事業実績	ボランティア登録者数...22年度末237名、29年度末238名、30年度228名、31年度216名、2年度受け入れ休止(コロナのため)。						
	事業費 (単位:千円)	H22決算 2,245	H29決算 2,564	H30決算 1,909	R1決算 1,743	R2決算 1,466	R1/22 77.6%	R2/22 65.3%
9	事業名	施設管理事業					継続事業	公益事業
	事業内容	福島県との協定に基づきふくしま海洋科学館、水生生物保全センター、子ども体験館アクアマリンえっぐ及び海水取水・送水施設並びに備品等の県有財産の維持管理・修繕を適正に行う。						
	目標	施設及び車輛の維持管理。						
	事業実績	主要維持管理施設...本館等敷地56,189.52㎡、本館延床12,935.11㎡、水生生物保全センター延床 925.09㎡、子ども体験館アクアマリンえっぐ1,266.7㎡、取水ポンプ棟84.43㎡、ろ過送水棟180.04㎡、わくわく里山・縄文の里関連施設1,509.56㎡						
	事業費 (単位:千円)	H22決算 390,577	H29決算 405,094	H30決算 369,510	R1決算 368,757	R2決算 379,463	R1/22 94.4%	R2/22 97.2%
10	事業名	ミュージアムショップ等事業					継続事業	収益事業
	事業内容	ふくしま海洋科学館の来館者に思い出や感動を持ち帰っていただく財団直営のミュージアムショップを運営し、来館者サービスの充実を図る。						
	目標	売り上げ状況分析やオリジナル商品の開発に積極的に取り組み、売り上げの増加を図る。						
	事業実績	売上... 22年度282,063,891円、29年度179,928,254円、30年度185,202,822円、31年度182,372,013円、2年度127,256,782円						
	事業費 (単位:千円)	H22決算 207,986	H29決算 148,710	H30決算 158,339	R1決算 161,132	R2決算 121,556	R1/22 77.5%	R2/22 58.4%

付表2：実施事業

11	事業名	レストラン事業					継続事業	収益事業
	事業内容	アクアマリンふくしま「海を食べる」をテーマにおいしい水族館を目指してオリジナルシーフードメニューを提供し、来館者の利用促進、満足度向上と魚食普及を図る。						
	目標	水族館らしいオリジナルメニューを開発し、おいしい水族館として定着させ、収益増を図る。						
	事業実績	売上... 22年度37,392,835円、23年度20,579,496円、24年度29,355,200円、25年度31,159,380円、26年度33,887,640円、27年度43,772,310円、28年度43,715,720円、29年度44,624,030円、30年度46,095,110円、31年度42,932,500円、2年度27,252,400円						
	事業費 (単位：千円)	H22決算 49,995	H29決算 50,498	H30決算 52,459	R1決算 49,332	R2決算 39,191	R1/22 98.7%	R2/22 78.4%
12	事業名	イブニングイベント事業					継続事業	収益事業
	事業内容	潮目の大水槽前のスペースを「アクアマリン竜宮城」と称して、イブニングイベントに貸し出す。雑魚のブランド化及び地域交流の場を提供する。						
	目標	アクアマリンふくしまの目玉である潮目の大水槽前の空間を、閉館後有料空間として開放することにより、収益増と地域交流を図る。						
	事業実績	イベント実施件数 雑魚をおいしく食べる会・24年度から31年度まで毎年12回、2年度8回開催した。						
	事業費 (単位：千円)	H22決算 レストラン事業費内	H29決算 レストラン事業費内	H30決算 レストラン事業費内	R1決算 レストラン事業費内	R2決算 レストラン事業費内	R1/22	R2/22
13	事業名	アクアマリンいなわしろカワセミ水族館管理運営事業					継続事業	公益事業
	事業内容	福島県内及び猪苗代湖の保全をテーマに、統括的な事業展開を行う。						
	目標	絶滅が危惧される水生昆虫や両生類等の保全を図る。 参加体験型展示を通じて環境保全及び教育普及活動を図る。						
	事業実績	福島県の河川・湖沼についての展示を行うとともに、希少淡水魚繁殖保全水槽にて絶滅が危惧される生物の展示を行った。また、県内に生息するゲンゴロウを始めとする水生昆虫の展示を行い、生物多様性について情報発信を行った。 釣り体験や小川水槽等の体験型展示を通じて環境保全や教育普及を行った。						
	事業費 (単位：千円)	H22決算 -	H29決算 77,289	H30決算 79,464	R1決算 78,832	R2決算 78,885	R1/22	R2/22

付表3：経営状況

区 分		H22決算	H29決算	H30決算	R1決算	R2決算	R1/H22	R2/H22
収 支 の 状 況	収入	2,016,339	2,460,386	2,293,276	2,206,404	1,723,539	109%	85%
	当期収入合計	1,811,389	1,438,587	1,340,402	1,291,726	978,258	71%	54%
	うち基本財産運用収入	1,778	114	114	114	73	6%	4%
	うち事業収入	1,201,042	889,150	929,335	874,094	557,299	73%	46%
	うち補助金等 (補助金・負担金・交付金・ 委託料等)	541,615	549,323	410,953	417,518	420,886	77%	78%
	うち借入金	0	0	0	0	0	-	-
	うち特定預金取崩	66,954	0	0	0	0	-	-
	前期繰越収支差額 ¹	204,950	1,021,799	952,874	914,678	745,281	446%	364%
	支出	1,838,355	1,492,574	1,580,921	1,457,644	1,470,446	79%	80%
	うち人件費総額	424,208	449,073	446,400	454,184	458,478	107%	108%
	うち人件費総額管理費(除人件費)	402,188	414,605	377,659	375,914	382,946	93%	95%
うち事業費(除人件費)	1,011,959	628,896	756,862	627,546	629,023	62%	62%	
当期収支差額 ²	-26,966	-187,015	-236,494	-140,312	-491,857	520%	1824%	
次期繰越収支差額 ¹	177,984	952,874	914,677	745,281	591,483	419%	332%	
財 産 の 状 況	資産	2,450,327	2,935,353	2,643,829	2,555,484	2,021,216	104%	82%
	流動資産	563,491	1,188,016	1,080,775	967,184	744,451	172%	132%
	固定資産	1,886,836	1,747,337	1,563,054	1,588,300	1,276,765	84%	68%
	負債	514,982	512,084	461,026	538,653	496,575	105%	96%
	流動負債	372,654	235,141	166,098	221,902	152,968	60%	41%
	うち借入金	0	0	0	0	0	-	-
	固定負債	142,328	276,943	294,928	316,751	343,607	223%	241%
	うち借入金	0	0	0	0	0	-	-
	正味財産	1,935,344	2,423,269	2,182,749	2,016,829	1,524,641	104%	79%
	うち当期増減額	19,703	-53,986	-240,520	-165,919	-492,188	-842%	-2498%

付表4：経営分析

区 分	H22決算	H29決算	H30決算	R1決算	R2決算	R1/H22	R2/H22
公益事業比率	82%	85%	86%	84%	88.5%	103%	108%
支出額計	1,838,355	1,492,573	1,580,922	1,457,645	1,470,446	79%	80%
公益事業支出額	1,502,886	1,266,295	1,351,858	1,231,265	1,301,886	82%	87%
収益事業支出額	335,469	226,278	229,064	226,380	168,561	67%	50%
直営事業比率	95.6%	89.4%	90.2%	89.6%	85.3%	94%	89%
支出額計	1,838,355	1,492,574	1,580,921	1,457,644	1,470,446	79%	80%
直営事業支出額	1,757,172	1,333,996	1,425,209	1,306,125	1,254,446	74%	71%
再委託事業支出額	81,183	158,578	155,712	151,519	216,000	187%	266%
自主事業比率 (自主事業 / 支出額計)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
施設等利用人数 (行政客体)	861,326	532,256	563,517	533,459	339,855	62%	39%
施設等稼働率	345日 2,497人/日	365日 1,458人/日	365日 1,543人/日	365日 1,462人/日	336日 1,011人/日	106% 59%	97% 40%
補助金等(補助金・負担金・交付金・委託料等)比率 (補助金等額 / 当期収入合計)	29.9%	38.2%	30.7%	32.3%	43.0%	108%	144%
流動比率 (流動資産 / 流動負債)	151.0%	505.2%	650.7%	435.9%	486.7%	289%	322%
管理費比率 (管理費 / 支出額計)	21.9%	27.8%	23.9%	25.8%	26.0%	118%	119%
人件費比率 (人件費 / 支出額計)	23.1%	30.1%	28.2%	31.2%	31.2%	135%	135%
借入金比率 (借入金 / 資産)	0	0	0	0	-	-	-
一人当たりの人件費 (人件費 / 総職員)	5,050	5,346	5,378	5,221	5,270	103%	104%
一人当たりの事業収入 (事業収入 / 総職員)	20,746	17,125	16,148	14,846	11,244	72%	54%
補助金等(補助金・負担金・交付金・委託料等)に含まれる人件費比率 (人件費 / 補助金等)	78.3%	81.8%	108.6%	108.8%	108.9%	139%	139%
事業収入に含まれる人件費比率 (人件費 / 事業収入)	24.3%	31.2%	33.3%	35.2%	46.9%	145%	193%

付表5:組織人員体制

1 役職員の状況

(単位:人)

区分	H22末	H29末	H30末	R1末	R2末	R3(4/1)	R2/H22	R3/H22	
役員 (監事含む)	常勤役員	2	2	2	2	2	100%	100%	
	プロパー	1	1	1	1	1	100%	100%	
	民間						-	-	
	県OB						-	-	
	県現職派遣	1	1	1	1	1	100%	100%	
	その他						-	-	
	非常勤役員	10	8	8	9	9	90%	90%	
	民間	7	7	7	8	8	114%	114%	
	県OB						-	-	
	県現職	2	1	1	1	1	50%	50%	
	その他	1					-	-	
	合計	12	10	10	11	11	11	92%	92%
職員	常勤職員	41	52	51	48	47	48	115%	117%
	プロパー	35	47	46	45	44	45	126%	129%
	民間							-	-
	県OB							-	-
	県現職派遣	6	5	5	3	3	3	50%	50%
	その他							-	-
	非常勤職員	41	34	32	38	40	36	98%	88%
	嘱託員	2	3	4	4	4	4	200%	200%
	臨時職員	34		0	2	5	1	15%	3%
	人材派遣							-	-
	その他	5	31	28	32	31	31	620%	620%
	合計	82	86	83	86	87	84	106%	102%

2 職員の年齢構成 (令和3年7月1日現在)

(単位:人)

区分	~30歳	31~35	36~40	41~45	46~50	51~55	56~60	61~	
管理職員	プロパー				2	3	1		
	民間								
	県OB								
	県現職派遣				1				
	その他								
	合計	0	0	0	1	2	3	1	0
一般職員	プロパー	9	4	5	8	9	2	1	1
	民間								
	県OB								
	県現職派遣			2					
	その他	7	2	2	3	5	2	3	12
	合計	16	6	9	11	14	4	4	13
総計	16	6	9	12	16	7	5	13	

付表6：県の関与状況

区 分		H22決算	H29決算	H30決算	R1決算	R2決算	R3当初	R2/H22	R3/22
財政的関与	補助金等	479,530	383,717	386,425	387,869	393,150	387,869	1	1
	補助金	35,000	25,685	25,685	25,685	30,966	25,685	1	1
	負担金							-	-
	交付金							-	-
	委託料		270	270	275	275	275	-	-
	指定管理料	444,530	357,762	360,470	361,909	361,909	361,909	1	1
	貸付金							-	-
	損失補償額(契約額)							-	-
	債務保証額(契約額)							-	-
人的関与	役員就任(監事を除く)	2	2	2	2	2	2	1	1
	常勤役員	1	1	1	1	1	1	1	1
	県OB							-	-
	県現職派遣	1	1	1	1	1	1	1	1
	上記以外の職員							-	-
	非常勤職員	1	1	1	1	1	1	1	1
	三役							-	-
	部局長	1						-	-
	県OB							-	-
	上記以外の職員		1	1	1	1	1	-	-
	監事就任	1	1	1	1	0	0	-	-
	三役							-	-
	部局長							-	-
	上記以外の職員	1						-	-
	評議員就任	1	1	1	1	1	1	1	1
	部局長		1	1	1	1	1	-	-
	上記以外の職員	1						-	-
	職員派遣	6	5	5	3	3	3	1	1
	管理職員	1	1	1	1	1	1	1	1
	一般職員	5	4	4	2	2	2	0	0

別紙1

区分	名 称	R1決算額
	補助等の目的	(単位:千円)
補助金	利用料金免除事業補助金(福島県)	25,685
	広く海に関する学習の機会及び余暇活動の場を提供することにより、自然環境に関する理解の向上及び生涯学習の振興を図る。	
	持続化給付金(中小企業庁)	2,000
	感染症拡大により、営業自粛等により特に大きな影響を受ける事業者に対して、事業の継続を支え、再起の糧とするための給付金を給付。	
	文化芸術振興費補助金(文化庁)	1,258
	博物館や劇場・音楽堂等の文化施設の再開に向けた感染症予防対策(赤外線カメラ設置・空調設備・空気清浄機・アルコール消毒液等)への支援。	
海の博物館活動サポート((公財)日本海事科学振興財団)	2,023	
日本財団の助成を受けて、全国の博物館・水族館・図書館等社会教育施設で開催される「海の学び」に繋がるテーマをもった企画展・特別展等を支援することにより、国民一般の「海の学び」への理解増進を達成することを目的とする。		
	補助金額合計	30,966
負担金		
交付金		
委託料	傷病鳥獣保護治療等業務委託(福島県)	275
	福島県に生息する野生鳥獣の保護及び県民の鳥獣保護思想の普及啓発を図るため、海棲ほ乳類など治療を必要とする種の保存や、主に沿岸地域に生息する鳥獣の傷病に対する治療等を適切に行い自然に復帰させるため業務を実施する。	
	委託料額合計	275
指定管理料	指定管理者制度に伴う管理委託料(福島県)	361,909
	県民に海に関する学習の機会及び余暇活動の場を提供することにより、自然環境に関する理解の向上を図り、生涯学習の振興に資するふくしま海洋科学館の設置目的を効果的に達成するため管理を実施する。	
	指定管理者制度に伴う管理委託料(猪苗代町)	20,000
	都市生活者等に自然と農業に親しむ場を提供することにより、自然環境及び内水面漁業等の振興を図り、住民福祉の増進に資する緑の村施設の設置目的を効果的に達成するため管理を実施する。	
貸付金		
損失補償額		
	損失補償額合計	0
債務保証額		
	債務保証額合計	0

別紙2

役員の状況

令和3年6月末現在

区分	定数	氏名	常勤・非常勤の別	職名	当初就任日	
					現任期満了日	
理事長	1	安部義孝	常勤	ふくしま海洋科学館館長	H12.4.1 R3.6.28	
副理事長	1	(空席)				
専務理事	1	(空席)				
常務理事	1	境野 浩義	常勤	ふくしま海洋科学館副館長	R3.6.28 別記	
理事	4～12	小宮輝之	非常勤	前上野動物園園長	H25.4.1 別記	
		川田雅雄	非常勤	小名浜まちづくり市民会議 副会長	H28.6.22 別記	
		谷口 旭	非常勤	生物生態研究所所長	H18.4.1 別記	
		佐藤 隆広	非常勤	福島県企画調整部 文化スポーツ局次長	R3.6.28 別記	
		馬場典枝	非常勤	FMIいわきパーソナリティー	H25.4.1 別記	
		田中 明	非常勤	元中東協力センター 審議役	H28.6.22 別記	
		籾本美孝	非常勤	北九州市立自然史・歴史博物館 魚類担当学芸員(自然史担当係 長)	H29.6.21 別記	
		古川 健	常勤		R3.6.28 別記	
監事	2	伊東幸雄		前公立岩瀬病院企業団企業 長	H29.6.21 別記	
		小野佐重喜		東邦銀行常務執行役員 いわき営業部長	R3.3.24 別記	

別記 理事: 令和5年6月に開催される定時評議員会の日まで
 監事: 令和5年6月に開催される定時評議員会の日まで